



# JHFレポート

(社)日本ハンググライディング連盟 発行

1999年 6月号

## 2000年からのJHF

来年 2000年は、JHFにとって大きな変化の年になります。

(財)日本航空協会が現在実施している航空スポーツ登録制度(フライヤー登録)がJHFに移管され、2000年1月からは、フライヤーはJHFに登録をすることになります。登録者は「飛行責任の宣言を行った者」として、JHFのフライヤー会員(これまでの普通会員)に。登録すると、航空協会のフライヤー登録と同様、第三者損害賠償保険に自動的に加入できるほか、「JHFレポート」が直接送付される等のサービスが受けられます。登録料(会費)は、1年間が3500円、3年間が1万円の予定(6月のJHF総会で決定されます)。保険料、JHFレポートの

代金・送料等がこの中に含まれます。

JHFへの登録は、新規の方以外は、航空協会のフライヤー登録が期限切れになる時に、手続きをしていただきます。来年1月以降に期限が切れる方には、JHFへの切り替えの案内が送付される予定です。年内にフライヤー登録を更新する必要がある方は、1年間有効の登録にすれば、JHFレポート送付等のサービスがそれだけ早く受けられますので、ご考慮ください。

JHF総合改革委員会は、フライヤー登録の移管 フライヤー会員・会費制度の確立を大きな柱として、さまざまな問題を検討してきましたが、2000年1月までに準備を整えるため、委員を三つの専門チームに分

け、それぞれ実務作業を進めることになりました。三つの専門チームは、登録データシステム、会費・保険制度、制度整備を推進し、この秋にはシミュレーション段階に入る予定です。

また、4月23日のJHF理事会で、新しい組織業務分担が決まり、総合改革委員会は、JHF企画部内の「総合改革推進室」になりました。JHFの改革についてのご意見・ご要望を、ぜひ推進室にお寄せください(FAX.03-3597-0245 JHF事務局内)。但し、直接回答はできませんので、ご了承ください。答は、2000年からのJHFの姿にあります。

## 委員会の動き

PG競技委員会 委員長 岡 良樹

これまで副委員長として活躍してきた田中美由喜委員がJHFの理事になり、PG競技委員が減員となりました。そこで、新しい委員を公募します。我こそはと思われる方は、JHF事務局に連絡して立候補用紙を請求し、6月21日(月)までに事務局に送ってください(当日消印有効)。直後の理事会で、立候補者の中から新委員が決定される予定です。

今年3月のCIVL総会で、2000年以降のカテゴリ-1の大会(世界選手権、大陸選手権等)に参加できる最低技能レベルが、これまでのFAI銀章ではなく、「当該大会の3年前まで遡ってカテゴリ-2の大会で2/3以上の順位に入っていることとなりました。国内でカテゴリ-2の大会を開催すれば、多くの選手がこの資格を得ることが出来ます。規則のゆるい今年が開催のチャンス。「ぜひ開催しよう」というオーガナイザーを募集しています。あまり難しいことはなく、しいて言えば、外国人フライヤーのエントリーを認めることと、英語のルールブックを作ることぐらいです。詳しくは、委員長までご連絡ください(連絡先はJHF事務局にお尋ねください)

HG競技委員会 委員長 大澤 豊

4月24日~28日に岩手県遠野市にてプレ日本選手権 in 岩手が開催され、5月1日~

5日には岐阜県池田町で第15回池田山スカイフェスティバルが開催されました(詳細はホームページに掲載)。1999年ポイントシステムの上半期の大会が終了しましたので、ポイントの中間報告書を登録者全員に郵送します。質問やクレームのある方は、競技委員会までご連絡ください。また、7月後半にイタリアのモンテクッコで開催される世界選手権で、クラス2の大会も同時に行われることになりました。つきましては日本から代表選手を選考することが懸案されております。選考会に先立ち、まず希望者も募集いたしますので、競技委員会宛にFAX またはE-mailで申請してください。HG競技委員会事務局FAX.0299-44-1346 E-mail:haku@tomato.saino.ne.jp http://tomato.saino.ne.jp/haku/JHF-HG.html

教習検定委員会 委員長 島野 広幸

タンデム技能証の運用がいよいよ始まります。すでに全国の各教員にお知らせをお送りしていますが、梅雨時に日本各地でパラグライダー教員とハンググライダー教員を対象とした「タンデム技能証特別検定会」を行います。4月の教習検定委員会(早くも短パン姿の委員も!)では、この特別検定会で使用する資料を詳しく検討し、準備を進めました。

この特別検定会で誕生するタンデム教員の皆さんには、高い安全性と確実性を確保

したタンデムパイロットを育てていただきたいと思います。参加を予定している教員は、配布された学科参考資料をよく読んで、特別検定会にのぞんでください。

## 空のかお

その21



平木 直之(ひらきなおゆき)さん  
平木 ひとみ(ひらきひとみ)さん

早いもので、体験フライトでパラグライダーの魅力にとりつかれてから、もう5年。今では二人ともパイロット証を取得して、朝霧高原で富士山を見ながらのフライトを、毎週のように楽しんでいます。

# 就任にあたって

# 新理事・監事からひとこと

3月17日のJHF3月通常総会で、任期満了に伴う役員選挙に行われ、理事11名、監事2名が選ばれました。新役員13名の任期は2001年3月31日まで。この間には、フライヤー登録の移管、フライヤー(普通)会費制度のスタートなど、大仕事が予定され、準備が始まっています。これらに取り組んでいく新役員に、理事・監事としての抱負を語ってもらいました。



会 長  
川添 喜郎

4月6日新理事会が発足し、新会長に選任されました。副会長に小林朋子理事が選任され、常任理事、各理事とも若い世代をベースにしたシフトとなりました。

私は会長職を名譽的なものとは考えていません。「仕事をしろ!」と言われていないと。役員選挙立候補文に書いたように、情熱ある理事さん達と力を合わせJHFの健全経営に取り組みたいと思います。世の景気も低調で、フライヤー登録数も減っている昨今、「今やるべき事は何か」を皆さんと共に考え、「今やるべき事」を「実行」してゆきたいと思ひます。

私はリーダーとは、高い所に立って「進め!」と号令をかけるのではなく、泥まみれになって先頭を走る役目と考えています。私は一フライヤー出身の会長として、毎週飛んでいる仲間としての視点で活動するつもりです。正会員、フライヤーの皆さんのご協力をお願いします。



副会長  
小林 朋子

副会長という大役を務めることになりました。これからはJHFの経営自体に深く携わっていきまじ、対外的にも大きな役割を担うこととなります。こんなに大切な仕事を引き受けることは私の一生で初めての事です。気合いを入れていこうと思ひます。

長期的視野でJHFを考え、フライヤー数減少をくい止め更に普及させていく活動に結びつくことを常に意識しながら、何事も判断し行動していこうと思ひています。

また、事務局業務の改善を図ることに力を注ぎます。2000年1月からのフライヤー登録制度移管に伴い、事務局の仕事は

大きく変わります。これに対応して一層確実で迅速な作業ができるようなシステムを構築します。

質問、お叱り、アドバイスなど皆様からの声を沢山聞いて成長したいと思ひています。一週間に3日程度は事務局に出て仕事をするつもりですので、お気軽にご連絡ください。



常任理事  
朝日 和博

再びJHFの理事になりました。自らの選任と、皆様のご承認のもとに活躍すべき場を与えていただきました。

そこで、私は理事として何をしようとしているのかを改めて考えてみました。

JHFにはまだ改善すべき事がたくさん残っています。現状には満足していません。私がやりたい事は次の事です。

1. 業務態勢の見なおしをし、効率的な仕事のできる環境を作る事。
2. 正会員に対するサービスの向上に努める事。
3. 検討資料はできるだけ早めに、正会員に送る事。
4. 2000年よりのフライヤー登録の移管を推進する事。

以上の事を任期中に確立できるよう努力するつもりです。これらの努力は結果的に一人一人のフライヤーのためになる事と信じております。今後の理事会の中で論議をし、未来につながるJHFを共に作り上げていきたいと考えています。



常任理事  
関谷 健人

平成11年度改選にて多くの正会員から支持をいただき、理事2期目を勤めることとなった。この度の新体制理事会を通じ、一般社会に認知されるスカイスポーツ団体を確立したいと思ひます。また、これまでできなかった課題を一日でも早く達成したい。自分としてのあるべきJHF理想像はあるものの、ボランティアという限られた活動しかできないことに苛立ちをおぼえる。

さらに、これから2年間は常任理事をも勤めることとなった。理事会だけでなく事務局運営を見なくてはならないため、初心に戻って時間を作ることから始めなければならない。

昨今の経済社会と同様にJHFの周辺も慌ただしくなっている。将来のJHFを考え第一に安定した事業運営ができる事業態勢を確立したい。



常任理事  
横尾 和彦

はじめまして。この度、JHF理事選挙において正会員の皆様には選ばれました横尾和彦と申します。僭越ながら以下に私なりの考えを述べさせていただきます。

1. フライヤーの組織を『守る』ということ  
フライヤーの組織、JHFは皆様の期待を受けて、いろいろとご意見を頂く立場ですが、「社団法人」という「器」を得て、世間に生れたときから、それに携わる者(経営者)の宿命として「組織を守る」ことが必要になったと思ひます。営利企業とは名こそ違え法人組織であることに変わり無く、スタッフ、財政、事務組織と、世間から認めて頂くために「体裁」が必要なのです。器に中身を詰める作業が必要に思われるのです。けっして消極的な「守りに入った」というのではなくまず「器」を確立しなければ何も始まらない、確固とした基盤が必要なのです。

急いで事は仕損じる。各方面の意見を聞いて、事務局の立場からじっくりやりたいと思ひます。



理 事  
岩間 雅彦

前の任期は事務局/制度委員会/インターネット専門委員会という管理・広報系部門を担当しましたが、今期は教習検定委員会という、より現場に近い部門を担当します。今年度の教習検定委員会は、新しくできたタンデム技能証制度の実施/普及と、ハングの教本作成という大きな課題を抱えています。タンデム技能証は原案作成から担当していたこともあり、また教習目的にも有効性が実証されているので、ぜひ実のある制度として定着させたいと思ひます。またハングの教本作成も永年の懸案事項であり、今年こそは結果を出さなければなりません。とは言え、教習検定委員会のメンバー各位の熱意と行動力には定評があるので、必ず良い結果を出していただけると確信しています。



理事  
田中美由喜

現在日本のパラグライダー・ハンググライダー界は、大きな変革を必要としていると思います。急成長を遂げてきた時代を過ぎ、成熟期に入ってきているのです。JHFもこのマーケットの動きに則して、フレキシブルに対応していくことが重要だと思います。

今回ドイツのガルミッシュで開催された「フリーフライト99」を訪問し、様々なメーカー、DHVのパイロット、スクールと話をしました。彼らもまた今、連盟、メーカー、スクールが一体となって協力態勢をとりスカイスポーツ発展の為に新しい道を模索しつつづけているのです。我々もやはり、フライヤーの為の連盟という単一なスローガンの基では成長していくことができない時代になってきていることを正しく認めることです。

新しい道を模索していく為に、前段階として、現在のJHFの運営の為に収入源はどこにあるのか、またどのような状況にあるのかフライヤーに理解してもらうことから始め、無理・無駄のない運営の手助けをしたいと思っています。



理事  
星野 納

新役員による最初の理事会において、少々「わがままなお願ひ」を通させていただきました。4月から仕事の都合上（今までほど普段の休暇が取りにくく、自由度も制約されるため）、かなりの役職担当を免除させていただきました。安易に担当をお引き受けするのは「やり始めたら最後まで全力投球する」という私の性分に反します。JHF新役員選挙の時点では予想もしていなかったことですが、現在進行中の最重要課題「総合改革委員会」を心ならずも辞すると同時に、永年微力を注いでまいりました「公益普及活動」からも外れることになりました。平成11年度は「補助動力委員会」一本のみを担当させていただき、問題が山積するMPG・MHG界の整理にあたりたいと思っています。



理事  
松田 保子

理事2期目がスタートしました。また広報出版局を担当することに決まり、これま

での2年間で得たことを今後の2年間で形にして、JHFのなかで広報出版局の進む方向を明らかにしたいと考えています。

来年1月から、フライヤー（普通）会員会費制度が始まり、JHFに登録し会費を納めた人全員に「JHFレポート」を直接お送りする予定でいるのは、皆さんご存知のとおり。JHFレポートの充実はもちろん、一般の人々への広報活動、フライヤーのための情報提供など、広報出版局は今後、今まで以上に重要な役割を担っていくこととなります。5年後、10年後のJHFが、フライヤーの、そして社会の望む広報出版活動を行えるよう、広報出版局の宮沢明さんと力を合わせ、皆さんのご指導・ご協力のもと、道を拓いていきたいと思っています。



理事  
松永文也

今、ハング・パラグライディングはどういう状況にあるのか？そして、これからどこへ向かうのか？現状を把握し、将来への展望を示し、ハング・パラグライディングの発展を促す事はこれらを統括する唯一の公益法人であるJHFの第一の使命であると言って過言では無いと思います。このような重大な使命を担うのに、現状のJHFの実力はまだまだ充分とは言えません。目的を達成するには各県連、インストラクターなどは言うに及ばず、事業者、個々のフライヤーに至るまでの人々が共通の認識の上に立って、あらゆる活動を通じて（日々のフライトを含めて）このスポーツの素晴らしさ、飛ぶ事への欲求の普遍性を表現していくことが不可欠であると考えます。私は全てのフライヤーの共通の基盤と成るためにJHFはどうあるべきなのか？という視点でこの役職に取り組みたいと考えています。



理事  
渡邊 敏久

我々の組織は、空に憧れを持ち、空を飛ぶことを愛するフライヤーたちにより、フライヤーのために誕生しました。今では、日本を代表するハンググライディングスポーツの統括組織として、また文部大臣から許可された公益団体として、全国47都道府県の連盟を正会員に、社団法人として活動しています。ここに至るまでには、多くの方々の献身的な努力があったことを、忘れてはなりません。今後、国内外でさまざまな活動を展開し、JHFを発展させていくため、自分たちの組織を充実させるよう努

力するとともに、連盟の礎を築いた先人の意志を、皆さんにお伝えしていきたいと思っています。



監事  
坂本 三津也

任期中に監事職として何ができたか？監事職とは何かと非常に考えさせられました。各委員会（教習委員会、改革委員会、学生指導担当）にも関わってきました。がしかし3月の総会の席において監事でありながら委員会の職も兼ねているのではとご指摘があり、非常に困惑させられました。

前回の役員選挙時、監事としての抱負に「JHF事業のスムーズな推進のため、私には監査役というより、新理事会の手助け役、裏方的な動きを要求されていると考えます。21年間にわたってハング、パラグライディングに携わってきた経験をもとに、頑張って協力していきたい」ということを掲げ活動してきました。これからの2年間も監事職以外の場で、予算不足、人的不足から必要とされれば当然それに応え、協力していきたいと思っています。そして健全な組織運営のために理事の目付役としての職責を充分理解し、公益法人としての社会的役割を推進する一助となれるよう、宮川監事と共に頑張っていきたいと思っています。

皆様のご理解とご協力、そしてご助言を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。



監事  
宮川 雅博

過日開催の3月通常総会において監事に再任いただきました宮川雅博です。

本連盟の今後の課題のひとつに会費収入の増強があげられると思います。現在の予算総額に対する会費の比率は異常に少ない状態で、これは会員が資産を出し合って運営されるべき社団法人としては異例のことです。

フライヤー登録の移管を機に会費制度の確立をすべきでしょう。

そのために必要になってくる定款や規約などの改正について、監事の立場で助言していきたいと考えております。

## 県連ニュース

### 北海道ハンググライディング連盟

当連盟では、競技フライヤーの育成、フライトのレベルアップを目標に、北海道ポイントを独自に設定しています。基本的にタスクは10km前後のスピードランですが、ミニマムはL/D 12として、簡便になりすぎないように、また道内各地のエリアで開催できるようにしています。

昨年度は、北海道大会、ニセコスカイラー、リンクス秋・春の、計4大会が成立。3月21日、カムイスキーリンクスでの最終戦は、パラグライダー・ハンググライダー合わせて70名が参加し、盛況のうちに終了しました。その結果、昨年度各大会で確実に上位入賞してきた国吉哲也氏が、98年度ポイント1位となりました。上位者は以下のとおりです。 吉野正規

#### 1998年度北海道ポイント順位

- 1位 国吉 哲也 221.3点
- 2位 小林 敬樹 183.3点
- 3位 酒井 節夫 170.0点
- 4位 矢野健太郎 152.9点
- 5位 有岡 修治 150.8点
- 6位 佐藤 毅 112.3点

### 青森県ハンググライディング連盟

- 1 4月11日、県連の年度「総会」を開催し、1年間のスケジュールが決まりました。
- 5月2日(日)パラグライディング体験教室 青森市モヤヒルズ
- 5月22日(土)パラグライディング助教員検定会 大鱈スキー場
- 7月18日(日)パラグライディング体験教室 大鱈スキー場
- 8月7日(土)・8日(日)パラグライディング県選手権 岩木山
- 9月下旬 ハンググライディング県選手権 岩木山
- 2 「青森県スポーツ立県宣言」について

青森県では、「スポーツに親しみ、スポーツに強い青森県！」をスローガンに、7月11日(日)の「メインフェスタ」を皮切りに、各種記念イベントがスタートします。この中にパラグライディング体験教室も組込まれ、我々もお手伝いすることになりました。

「メインフェスタ」では、ラグビーのニュージーランドチームと全日本チームとの国際親善試合を始め、杏里のステージも予定されています。 古川正司

### 宮城県ハンググライディング連盟

今月の記事は「県連ニュース」としてはかけ離れてしまっていますが、たいへん興味深い内容なので、ぜひ皆さんに公表したく取り上げた次第です。

私と同期にパラグライディングを始めた友人が、仕事の関係で3年程前から米国のコロラド州に住んでいます。その友人から1998年の米国におけるパラの事故報告というものが届きました。日本国内でもなかなか把握しにくい事柄で、私共の県連でも苦労しています。以下、抜粋原文のままですが、どうぞご参考に。 川越敏明

\*

日本のJHFに相当するUSHGAという組織が米国にあります。年に一度、事故の調査アンケートが来ます。USHGAがまとめた1998年の米国でのパラグライダーによる事故を、参考にお知らせします。

怪我及び死亡事故:31件(うち死亡事故4件) その他:4件

発生状況内訳:地上でのパラ操作中...6%、離陸時...23%、飛行中...26%、着陸時...45%

技能レベル:生徒...6%、Beginner [ P1 ] (日本のA・B級)...17%、Novice [ P2 ] (日本のノービスパイロット)...29%、Inter-

mediate [ P3 ] (日本のパイロット)...11%、Advanced [ P4 ] (日本のXC)...11%、Master [ P5 ] (教員)...3%、Tandem Instructor [ T3 ]...14%、不明...3%

以上のような結果が示されています。ただ、ここで問題なのは、これらがすべてではなく、6件のうち5件は報告されていないことです。事故報告に抵抗を伴うのは、どこの国も事情は似たり寄ったり。USHGAでも、パラグライディング普及のためには、安全性確保が大事だという認識で、事故報告を広く呼びかけております。「匿名でもいい、報告した人には\$5のクーポンを差し上げます、ヒヤリ、ハット事故も知らせてください」...等等、事故情報収集にたいへんな努力を払っています。

### 福岡県ハング・パラグライディング連盟

4月10日・11日の両日、恒例のパラグライディング大会「SSA 平尾台PG Cup'99」が開催されたが、生憎の天候不良のため、競技は不成立に終わった。しかし、多数の招待選手によるセミナーが開催されたり、立ち上げデュレーションにより賞品がバラまかれ、楽しい一時を過ごすことができました。 越智善治

正会員広報係を決めてください。

「県連ニュース」の記事は、各正会員(都道府県連盟)の広報係の皆さんが送ってくれます。広報出版局では、全国からの情報を掲載しようと、各正会員に「広報係を決めてください」とお願いしていますが、残念ながら広報係の連絡があったのは40%ほど。できるだけ早く広報係を決定し、JHF事務局内の広報出版局にご連絡ください。連盟活動をもっと元気にするために、ご協力をお願いします。 JHF 広報出版局

## 大会報告

### 99ハンググライディング足尾山オープンカップ

1999年4月3日・4月4日

#### 茨城県新治郡八郷町足尾山エリア

- 1位 古坂 学俊 茨城県 155.3点
- 2位 小林 正和 千葉県 104.8点
- 3位 吉野 欣大 千葉県 90.0点
- 4位 内藤 邦裕 大阪府 84.3点
- 5位 大門 浩二 茨城県 84.2点
- 6位 鶴野 昌洋 静岡県 81.9点

(女子の部)

- 1位 福田 佳代 茨城県 76.9点
- 2位 崎谷 未央 東京都 66.5点
- 3位 岡田 明子 静岡県 51.3点

春と言えばどじからすのクロカン大会。前日までの天気予報では全く競技が出来ないのではないかと心配された。そんな心配を払拭するかのよう初日は朝から晴れとなった。14:00過ぎに南風が変わったもの前半の北風の中72km飛んだ古坂選手が

1位、100m差で大門選手。大門選手の2連覇がかかった2日目。晴れとはほど遠い空模様で迎えられた。足尾では1000mしか上がらない条件で36名ものミニマム以下の選手が出たが、8名の選手が40kmを超え、1位になった古坂選手はダントツの83km飛び、完全優勝を果たし、大門選手の2連覇を阻んだ。

#### '99板敷山スプリングフライト(HG)

1999年4月7日~4月11日

#### 茨城県新治郡八郷町板敷山エリア

- 1位 堀口 道明 埼玉県 1273.2点
- 2位 波多野康雄 兵庫県 1234.0点
- 3位 佐藤 信博 山形県 1222.1点
- 4位 鈴木 博司 三重県 1186.2点
- 5位 阿部 貢造 千葉県 1182.1点
- 6位 小林 弘 東京都 1179.5点

(女子の部)

- 1位 香川 祥子 大阪府 669.1点

- 2位 安楽恵里子 東京都 592.9点
- 3位 谷古宇端子 栃木県 511.9点

今年は天気が悪いという話通り、99板敷山スプリングフライトもその今年そのものだった。初日は晴れてはいたものの急速な寒冷前線の発達により途中でキャンセル。2日目ももったいないぐらい晴れてはいるものの、フォローが強すぎてまたもやキャンセル。そして3日目、やっと来た競技日和となり、板敷山スプリングフライト名物の白河ゴール92.3kmのタスクを設定する。結果はファーストゴールの波多野選手が1位、リフライトながら猛スピードで追い上げた佐藤選手が2位となった。大会成立に必要な本数は2本だったが、4日目も曇り空の中、競技の可能性を求めて27.4kmのタスクを設定する。しかし、ゴールは出ず13.3km飛んだ堀口選手が1位になり、総合でも堀口選手が逆転し初優勝を飾った。

私たちの  
**クラブ**  
です!

# ASAGIRI RED SUNS

## 朝霧レッドサンズ



岡良樹氏を囲んで張り切るメンバー。

「ASAGIRI RED SUNS」は、今年2月の終わりに結成された、できたばかりのパラグライダークラブです。クラブといっても特定のエリアを持っているわけではなく、富士山の麓、朝霧高原にあるスカイ朝霧で飛んでいるP証以上のフライヤーの集まりです。

「なぜ一般フライヤーがわざわざクラブを結成したのか？」というと、富士山の麓に広がる広い管理空域と高いフライト確率、強烈なサーマルという恵まれたエリア環境にも関わらず、ここ数年はクロスカントリーや大会を目指したフライヤーが少な

くなってきているため、一般フライヤーのフライト技術の向上を目標にして、元SET朝霧のスタッフを中心にして気の合う同年代(平均年齢27歳弱)のフライヤーが集まって、クラブチームを結成したわけです。

その活動内容ですが、まずは昨年から始まった「SPSシリーズ」を中心とした大会への参加を目指して、そのためのフライト技術の向上を目標に毎週末、特訓しています。その練習のために、昨年白糸エリアで行われた「SPS朝霧大会」で設定されたパイロンを参考に、その日のコンディションに合わせたタスクの設定をし、それに沿ったフライトを行う、というパイロンレースに近い練習をしています。フリーフライトでは、その日のコンディションも気分によって文字通り“自由なフライト”が楽しめるのですが、目的があらかじめ決められた練習メニューでは、1フライトに対する集中力が、より一層高

くなってきているように感じます。この練習に刺激されてか、今まで白糸エリアでの第一目標である天子岳をトップアウトしても、そこからあまり移動していなかった他のフライヤー達も一緒に同じ方向に向かって移動したりと、エリア全体にもいい影響がでているのではないかと感じます。

この他の楽しみとしては、クラブ結成以前からボーリングが盛んで、1年以上もブームが続いています。その盛り上がり方は尋常ではなく、“マイシューズ”は勿論“マイボール”まで持っているメンバーもいるほどです。更にそのルールは趣向が凝らされ、且つ多彩で、以前参加していただいた長島信一さんにも大変好評でした。

とりあえずSPSを含めた大会への出場を目的としています。まだ結成したばかりで、大会にはまだ一度も出場していないので、今後どうなるかわかりませんが、関東近県を中心に“遠征”する予定です。特に大会に関しては“素人”の集まりですので、まず経験を積み、何年後かには大会の常連になることを目標に、フライト技術の向上に励んでいきたいと思ひます。

記：勝又信行



富士山を眺めながらのフライトは格別!

検定会開催予定(1999年4月23日現在)		PGP : PGパイロット学科 PGNP : PGノービスパイロット学科 HGP : HGパイロット学科 XC : PG&HGクロスカントリー学科 補助: 補助動力学科 (いずれも数字は定員)								
開催日	時間	開催地	会場	PGP	PGNP	HGP	XC	補助	主催者	電話番号
6/5(土)	13:00~17:00	東京都中野区中野	中野サブプラザ	15	15		10		東京都連盟	03-3724-0010
6/13(日)	18:00~20:00	神奈川県横浜市神奈川区	神奈川県民センター会議室	15	15	15	15	1	神奈川県連盟	0460-3-5391
6/26(土)	14:00~17:00	岡山県阿哲郡大佐町	S・E・T大佐山講義室	20					SET大佐山SS	0867-98-3400
6/27(日)	9:00~12:00	熊本県阿蘇郡阿蘇町	阿蘇ネイチャーランド	10	10		10		阿蘇ネイチャーランド	0967-32-4196
7/4(日)	10:00~16:00	福井県勝山市	スキージャムエリア管理室内	10	10		10		ディクロスPGスクール	0776-23-4411
7/17(土)	14:00~17:00	岡山県阿哲郡大佐町	S・E・T大佐山講義室		20				SET大佐山SS	0867-98-3400
7/25(日)	9:00~12:00	熊本県阿蘇郡阿蘇町	阿蘇ネイチャーランド	10	10		10		阿蘇ネイチャーランド	0967-32-4196
8/8(日)	18:00~20:00	神奈川県横浜市神奈川区	県民センター	15	15	15	15	1	神奈川県ハンガリアンライディング連盟	0460-3-5391
8/29(日)	9:00~12:00	熊本県阿蘇郡阿蘇町	阿蘇ネイチャーランド	10	10		10		阿蘇ネイチャーランド	0967-32-4196

大会開催予定(1999年4月23日現在)		PS: ポイントシステム対象(ポイントシステム対象、公認については申請中を含む。) 参加資格 XC: クロスカントリー証 P: パイロット証 NP: ノービスパイロット証 B: B級練習生参加可 会員: 都道府県連盟に属する者				
区分	大会名	日程	開催地	参加資格	参加費	締切
PG	公認 '99立山らいちょうバレーカップINサマー	7/31・8/1	らいちょうバレースキー場	XC	10,000円	7/19
	PS 〒125-0031 東京都葛飾区西水元6-22-15 TEL03-3608-8626					
公認	パラグライダーフェスティバルIN浜名湖	7/24~26	浜名湖フライトパーク	P・B県連加入	11,000円他	7/4
PS&SPS	静岡県引佐郡三ヶ日町大谷310-7 静岡県連	TEL053-526-0141				
公認	'99高山ホルンバレーカップ	8/28・29	高山ホルンバレー	XC	15,000円	8/17
PS	〒125-0031 東京都葛飾区西水元6-22-15 TEL03-3608-8626					
公認	'99Cooフルーツカップ	10/9~11	エアパークCoo	XC	20,000円	9/30
PS	〒315-0157 茨城県新治郡八郷町上曾1698-1 エアパークCoo 大会実行委員会 TEL0299-44-1408					

ハロー

パラグライディング (その2)

風と遊ぼう!

コウジ: 今度パラグライダー始めたんだ!  
キヨミ: パラグライダーってあのパラシュートみたいな乗り物?

コウジ: そうだよ。スカイダイビングは飛行機から飛び降りるけど、パラグライダーは山のテイクオフ地点から飛び出すんだ。  
キヨミ: 自分の行きたい方へ行けるの?  
コウジ: 両手に持っている「ブレークコード」を引いて方向を変えたり、スピードの調整ができるんだ。そして決められた場所に着陸するというわけ。

キヨミ: へーえ、何分ぐらい飛んでいるの?  
コウジ: パラグライダーは山から降りてくるだけでなく、気流を利用して高く上がることできるんだよ。そうするとテイクオフ地点より数百メートルも高く上がったし、何時間も飛び続けることができるんだ。  
コウジ: すごーい。私も一度飛んでみたいなあ。でも怖くない?

コウジ: 全然。といってもまだ僕は低いところで練習中。なだらかな斜面の講習会場で、飛ぶ前の準備や離陸、飛行中、着陸の操作を講習場で確実にしてから、高高度フライトに進むんだ。

キヨミ: でも私、高い所苦手だしなあ。  
コウジ: 自称「高所恐怖症」の人も結構やってみてほしいよ。飛んでいるときはハーネスに座っているので、屋上から下を見るのとは違って、案外大丈夫らしいよ。

パラグライダーは風と遊ぶスポーツです。いわゆる落下傘(昔のパラシュート)との大きな違いは、「滑空」するという点。下へゆっくり落ちるのではなく、前方に飛んでいきます。グライダーと同じです。そしてブレークコードを引くことで、右でも左でも、自分のいきたい方向へ進むことができます。ただしエンジンはないので、高度は少しずつ下がってやがては着陸となります。ところが、もし風が力を貸してくれたら...。地形や空気の対流によって起こる上昇気流に乗ることができると、パラグライダーは高度が落ちずに飛ぶことができ、時にはぐんぐんと高く上がっていきます。これがソアリングです。

はじめは講習会場での練習です。ここでもきつと「飛んだ」という実感(感動!)が



左右の手に持っているのがブレークコード。

味わえることでしょう。そして目指すは高高度フライト。山頂などのテイクオフ(離陸場:T.O.と表記することもある)からランディング場(着陸場:L.D.)まで、大きな高度差を飛ぶことを高高度飛行と呼んでいます。スクールに入るのが最初のドアとすれば高高度フライトは次のドア。一度開けたらもう病みつきます。パラを始めたら是非、高高度フライトまで挑戦してください。インストラクターと一緒に飛ぶ「タンデム飛行」で、簡単に高高度フライトの感覚を味わうこともできます。高高度飛行は「高くてこわいのでは」と思われるかも知れませんが、ハーネスというイスに座っているので、高所に立って下をのぞき込んだときのようなビクビク・グラグラの感覚はなく、風と一体となって飛ぶ感覚にきつと魅了されることでしょう。



タンデム飛行では手軽に高高度フライトが経験できる。

日本ハンググライディング安全性委員会 (JHSC) 議事録

日時: 1999年3月15日(木)13時~17時  
場所: 航空会館6階602会議室  
出席委員: 斎藤紀、幸路尚文  
委任状 阿部郁重、岡良樹、下山進、野口常夫  
オブザーバー: 渡邊敏久、桂敏之  
機体登録申請者: 株式会社スポーツオーパカイト  
技術部会(型式登録審査)  
パラグライダー・新規登録  
・Gin-Gliders 式 Bonanza S型(合格:PI - 668)  
・Gin-Gliders 式 Bonanza M型(合格:PI - 669)  
・Gin-Gliders 式 Bonanza L型(合格:PI - 670)

- ・NOVA 式 X-RAY20型(合格:PI - 671)
- ・NOVA 式 X-RAY22型(合格:PI - 672)
- ・NOVA 式 X-RAY24型(合格:PI - 673)
- ・NOVA 式 Axon22型(合格:PI - 674)
- ・NOVA 式 Axon24型(合格:PI - 675)
- ・NOVA 式 Axon26型(合格:PI - 676)
- ・NOVA 式 X-Act19型(合格:PI - 677)
- ・NOVA 式 X-Act21型(合格:PI - 678)
- ・NOVA 式 X-Act23型(合格:PI - 679)
- ・NOVA 式 X-Act25型(合格:PI - 680)
- ・NOVA 式 X-Act27型(合格:PI - 681)
- ・APCO式 ALLEGRA-XS型(合格:PI - 682)
- ・APCO式 ALLEGRA-S型(合格:PI - 683)
- ・APCO式 ALLEGRA-M型(合格:PI - 684)
- ・APCO式 ALLEGRA-L型(合格:PI - 685)
- ・APCO式 BAGIRA-XS型(合格:PI - 686)

- ・APCO 式 BAGIRA-S型(合格:PI - 687)
  - ・APCO 式 BAGIRA-M型(合格:PI - 688)
  - ・APCO 式 BAGIRA-L型(合格:PI - 689)
  - ハンググライダー・新規登録  
・ウイルスウィング式フュージョン 141型(合格:I-171)
  - ・AIR WAVE 式 CONCEPT59型(合格:I - 172)
  - ・AIR WAVE 式 CONCEPT39型(合格:I - 173)
  - ・AIR WAVE 式 Xbow 型(合格:I - 174)
  - ・AIR WAVE 式 EXTREME150型(合格:I - 175)
- 定例委員会  
形式登録の申請件数が輻輳したため、議題は次回に持ち越しとなった

JHSC はこんな活動をしています。

日本ハンググライディング安全性委員会(JHSC)は、その名のとおりハンググライダーやパラグライダーの安全性確保を目的とした委員会。JHFの委員会の一つですが、その性質上、中立と公正を保つため、なかば独立した組織になっています。JHSCの主な活動は、日本で使用されるハンググライダーとパラグライダーの耐空性を審査して、合格した機体の型式を登

録すること、技術資料や事故データの収集・分析などを通じて、安全性の向上を図ることです。同様の活動をしている外国の検査機関 AREO TESTS(フランス)やDHV(ドイツ)等とも連絡を取り合い、検査基準の共通化を図ったり、技術情報の交換も行っています。また、山梨県の日本航空学園内に強度試験施設を持ち、国産機や、外国での耐空試験を受けていな

い輸入機の強度試験も実施しています。JHSCは、委員長以下15名の委員で構成され、毎月1回の定期委員会を開いて、型式登録申請のあった機体の耐空性審査を行ったり、技術上・安全上の問題を検討しています。耐空性審査の席には、申請者が出席して委員の質問に答えることができるので、その場で疑問点が解明できることが多くなり、審査がスムーズに進みます。



# 理 事 会 ダ イ ジ ェ ス ト

## 4月6日理事会

1999年4月6日(火)13時30分～17時 東京都港区航空会館503会議室 出席：朝日和博・岩間雅彦・川添喜郎・小林朋子・関谷暢人・田中美由喜・星野納・松田保子・松永文也・横尾和彦・渡邊敏久各理事、坂本三津也・宮川雅博各監事 欠席：なし 議長：松永文也

### 会長・副会長・常任理事の互選

互選の方法について、以下のように選出することを確認した。

立候補、推薦を受け付ける。

推薦された候補については、候補者が出揃った時点で本人の意志を確認する。本人の辞退がある時は、これを優先する。

無記名投票にて、理事数の過半数をもって決定する。

一つの役に落選した人は、他の役の候補になることができる。

### 会長互選

候補者：渡邊敏久(推薦)、川添喜郎(立候補)、小林朋子(推薦)

小林が辞退したため、渡邊・川添兩名を候補とし投票。渡邊3票、川添8票で、会長は川添に決定。

### 副会長互選

候補者：小林朋子(推薦)

候補が小林1名のため、信任が否かについて投票。信任10票、無効1票で、副会長は小林に決定。

### 常任理事互選

候補者：関谷暢人(立候補)、朝日和博(立候補)、横尾和彦(立候補)、岩間雅彦(推薦)

岩間が辞退したため、関谷・朝日・横尾の3名を候補とし、信任投票。関谷11票、朝日11票、横尾8票で、この3名が常任理事に決定。

### 事務局長の選任

事務局長の選任は常任理事会に一任する。

### 委員会等担当者の決定

各委員会等の担当は以下の各理事に決定。ハンググライディング(HG)競技委員会・パラグライディング(PG)競技委員会：松永文也、補助動力委員会：星野納(関谷暢人が副担当)、教習検定委員会：岩間雅彦、制度委員会：横尾和彦、広報出版局：松田保子、海外局：小林朋子

## 4月23日理事会

1999年4月23日(金)13時30分～17時 東京都港区立生涯学習センター202学習室 出席：朝日和博・岩間雅彦・川添喜郎・小林朋子・関谷暢人・田中美由喜・松田保子・松永文也・横尾和彦各理事、坂本三津也・宮川雅博各監事 欠席：星野納・渡邊敏久各理事 議長：朝日和博

### HG世界選手権クラス2選手募集

松永よりHG競技委員会について報告。7月24日～8月8日にイタリアで開催される

ハンググライディング世界選手権で、クラス2の競技が行われるため、クラス2にエントリーを希望するパイロットを募集することに決まった。

### PG競技委員募集

松永よりPG競技委員会について報告。田中副委員長が理事になったため、新たに委員を公募することに決定した。

### 学習会

「組織の基本的認識」について学習。JHFの役員、委員会、事務局、各部・局・室、特別委員会・臨時委員会の役務・業務について確認。また、常任理事会より事務局運営案が提出され、これを確認。事務局長は横尾。業務係は小林、経理係は朝日、総務係は関谷がそれぞれ管理者となる。

### 理事会運営要領案について審議

常任理事会より提出された理事会運営要領案について審議、賛成8で可決。また理事会日程を2ヶ月先まで決めることを、賛成8で決定。

### JHF組織・業務分担案について審議

常任理事会より提出されたJHF組織・業務分担案について審議。各理事の業務分担に修正を加え、賛成8で可決。

管理部 事務局 事務局長(JHSC事務室兼務)：横尾、業務係：小林、経理係：朝日、総務係：関谷 予算編成室 朝日、関谷、横尾、松永

企画部 広報出版局 松田、松永 総合改革推進室 川添 国際技能記章推進室 関谷 レジャー航空無線推進室 横尾

専門部 調査統計室 松永、小林、松田 CIVL海外室 小林 普及事業室 田中 常設委員会 PG競技委員会：松永、HG競技委員会：松永、補助動力委員会：星野、教習検定委員会：岩間、制度委員会：横尾

1999年度事業の優先事項案について審議 常任理事会より提出された1999年度JHF事業優先事項案について審議。案のうち「フライヤー登録移管業務」を最優先事項として行うことを賛成8で可決。

### 総合改革委員の辞任について審議

総合改革委員会(総合改革推進室に変更)の星野納委員より仕事上の都合で辞任伺いが提出され、賛成8でこれを了承。

### フライヤー登録移管に関する審議

JHF会員規約案の総会上程案について、賛成8でこれを可決。正会員の年会費を2万円、フライヤー会員は3500円、賛助会員は2万円で、総会に上程する。

定款改定案について、賛成7で可決(1名中座)。第3章の第5条(2)の「普通会员」を「フライヤー会員」に改定する。

日本航空協会に提出する予定の「ハング・パラグライダーに関する航空スポーツ登録制度の移管に関する覚書」案について、賛成7で可決(1名中座)。

RACEソフトウェア制作費負担について 小林より提案されたRACEソフトウェア制作費の負担について審議。賛成6、反対1

で承認(1名中座)。GAPスコアリングシステムの発展版であり、国際標準になるといわれる得点集計システムRACEの開発費用援助を行う。

### 日当の額について

朝日より提案された、役員・委員等の日当の暫定的減額をさらに1年間延長することについて審議。賛成6、反対1(案よりさらに減額という意見)で可決(1名中座)。

### タンデム技能証特別検定会について

教習検定委員会(担当：岩間)より、タンデム技能証特別検定会検定員委嘱状発行願いが提出され、これを審議。期間限定の委嘱状を発行することを、賛成6、棄権1で可決(1名中座)。以下の10名に対して発行する。

島野広幸、小林秀彰、桂敏之、毛涯正澄、田中栄一、中野信行、下山進、坂本三津也、岩間雅彦、朝日和博

また、同委員会から提出されたタンデム技能証特別検定会開催のための予算措置案について、賛成8で可決。

スポーツ・フォア・オール・ネットワークについて

PG&HG両競技委員会担当の松永より提案。SSF笹川スポーツ財団主催の「SSFスポーツ・フォア・オール・ネットワーク」への入会について審議。賛成7で可決(1名中座)。入会すると、スポーツエイド(助成金)の緊急申請を行うことができる等、特典がある。年会費は5000円。

### JHF6月総会日程について

6月23日(水)に、JHF6月総会を行うことを、賛成8で決定。会場は東京都の羽田空港ビッグパードの予定。正会員の意見交換の時間が持てるかどうか、調整する。

PG世界選手権日本代表チームについて PG競技委員会(担当：松永)より、今夏のPG世界選手権日本代表チームのチームリーダーを半谷貞夫、アシスタントを辻強とする案が提出され、賛成8でこれを承認。すでに承認済みのチームメンバーは次の8名。扇澤郁、川地正孝、加藤豪、松原正幸、陸山健司、只野正一郎、田中美由喜、神山和子

### 新理事会の所信表明について協議

松永より新理事会の所信をわかりやすい形で広報してはどうかと提案、各理事は意見を松永あてに送ることにする。

### 補正予算について

以下について補正予算計上願いが出された。カテゴリー2競技会エントリー費、RACEソフトウェア制作費、広報出版費。

\*

「理事会ダイジェスト」は、理事会で話し合われたこと、決まったことのポイントをお知らせしています(審議事項はすべて掲載)。理事会の議事録は各正会員(都道府県連盟)に送られるので、必要な方はそちらをご覧ください。

JHF 広報出版局

スカイスポーツ専用波で交信を

「スカイレジャー航空無線機普及事業」いよいよスタート!

スカイレジャー航空無線機普及事業がスタートしようとしています。

この事業は、4年前から計画を立て、補助金を得るための申請を続けてきたもの。昨年度(1998年度) JHFの計画と申請が郵政省に許可され、「平成10年度お年玉付き郵便葉書等に付加される寄付金の配分」として510万円の補助金を受けられることになり、いよいよ計画実現に向けて一歩踏み出しました。

ルールを守らず無線交信するフライヤーがふえ、混信等の問題が出てきたため、何とかしなければ.....というのが、そもそもの発端。スカイレジャー用に許可されている専用波(465.1875MHz)を利用して、競技会や講習会、検定会等の通信をすれば、確実に情報が伝わり安全確保にも役立つし、周囲に迷惑をかけずに済むだろうと、専用無線機 専用波を利用するのに必要の購入を計画。補助金を受けられることが決まった昨年度、さっそく理事会で業者を選び、アイコム社に186台の発注をしました。電波管理局への登録申請など準備を整え、この秋には実際に無線機が使えるようになる



見通しです(写真のモデルが納品される)。当初は、各正会員に2台ずつ預けて利用してもらおうというプランがありましたが、JHFが「無線従事者」になるため、JHFがまとめて管理し、公認大会や都道府県連盟のイベント用に貸し出すことになりました。JHFが登録を終えると、全国移動の携帯局ということになり、JHFの会員はこれを使用できます。ただし、無線の免許 第三級陸上特殊無線技士 を持つ人が2名必要です。JHFでは、この有資格者をふやす計画を練っているところ。こちらの計画については、あらためてお知らせします。また、専用無線機の個人購入についても検討

中です。

スカイレジャー専用の周波数帯は、今のところ1波のみ。日本マイクロライト航空連盟や日本気球連盟等が、すでに利用しています。専用波なら情報を確実に伝えられるはずですが、近くで他のスカイスポーツ団体が使っていれば、混信する心配があるので、他団体との調整が必要です。

この事業が軌道に乗って、電波従事者の実績ができれば、他団体と混信しないように分波の開設を電波管理局にお願いする予定です。それを実現するためにも、ルールやマナーを守って、専用無線機を活用していきましょう。

レジャー航空無線推進室 横尾和彦 お願い

スカイレジャー航空無線機普及事業のスタートには、JHFが無線従事者をおき、専用無線局を設置することが必要。そのために、「第三級陸上特殊無線技士」または「無線電話の乙」資格をお持ちの方のご協力を求めています。JHF事務局内、横尾までご連絡ください。TEL.03-3592-2651 FAX.03-3597-0245

川地正孝さん・富士美さんが両親とタンデムフライト

日本を代表するコンペティターのひとりで、今夏もパラグライディング世界選手権に出場する予定の川地正孝さんが、やはり大会で活躍している妻の富士美さんと、ドイツでタンデムフライトをした。といっても、川地夫妻が2人で飛んだのではなく、富士美さんの両親をパッセンジャーに、4人で家族水いらず(?)のフライトを楽しん

だのだ。

このタンデム飛行は、テレビ局の企画募集に正孝さんが応募したのがきっかけで、実現したもの。富士美さんの夢だった、ノイシュバンシュタイン城を見下ろしてのフライトが、両親と一緒にという思いがけない形で叶って、感動もひとしお。

4人のフライトの様子は、テレビ朝日系

全国ネットの「ドキドキ世界大冒険」で紹介される。この番組は、世界中の冒険家や、冒険に取り組み一般視聴者・タレントらの奮闘ぶりをVTRで取材するドキュメンタリー。毎回3コーナーある取材のうち、「大自然アドベンチャー」コーナーに、川地さんたちが登場する。放送日は、5月22日、29日の前後編で、夜7時~8時の予定。

事務局から

待ち遠しい技能証はいつ?

春の風に乗って、あなたの技能ステップはどこまで進みましたか。練習のかいあって検定に合格、申請を済ませて、あとは技能証を待つばかり。ところが、なかなか届かない.....そんな時は、技能証の送付先をどこにしたか、確認してください。スクールで技能証の申請をした時に「宛名シール」に自分の住所を記入していれば、その住所に、記入しなかった場合はスクールに届きます。

海外フライトにはIPPIカードを。

夏休みは憧れの海外フライトツアーだ!と張り切っている方、「IPPIカード」をお忘れなく。

このカードは、FAI 国際パイロット技能証明書です。海外で飛ぶ人はぜひ持参してください。発行の依頼は、JHF事務局にできるだけ早くお願いします。通常、必要書類が事務局に到着した日の翌週末までに発送というスケジュールです。出発日に間に合うようご注意ください。

申請に必要な書類は、フライヤー登録証と技能証のコピー。申請料3000円。申請用紙は各都道府県連盟にご請求ください。

なお、IPPIカードは、あくまでも技能レベルを証明するものであって、訪れた国で自由に(勝手に)飛んでいいというものではありません。各国のルールがあり、登録や保険加入が必要などところもあるので、必ずご確認ください。

JHF 技能証発行数 (1999年4月30日現在)					
ハン グ グ ラ イ デ ィ ン グ	P証	4,777	パ ラ グ ラ イ デ ィ ン グ	P証	17,606
	C証	6,694		NP証	7,967
	B証	11,233		補助動力NP証	62
	A証	10,646		B証	38,525
	補助動力証	124		補助動力B証	120
	XC証	1,064		A証	41,379
				補助動力A証	145
		補助動力証	872		
		XC証	3,281		

JHF ホームページもご覧ください。 <http://jhf.skysports.or.jp/>

**JHF レポート 6月号 (No.149)**

発行日 1999年5月20日 定価 10円

発行 (社)日本ハン グ グ ラ イ デ ィ ン グ 連 盟  
〒105-0004 東京都港区新橋2-5-6 大村ビル4F  
TEL.03-3592-2651 FAX.03-3597-0245

編集 JHF 企画部広報出版局

印刷 日本印刷(株)

この印刷物は再生紙を使用しています。